

令和8年(2026年)3月31日

北河内夜間救急センター協議会
各委員

北河内夜間救急センター協議会事務局

**第2回北河内夜間救急センター協議会幹事会における「オンライン診療の検討」の
報告について**

令和7年度(2025年度)第2回 北河内夜間救急センター協議会幹事会(令和7年11月5日)において実施した幹事会における検討状況について、下記の通り、報告します。

記

1. 寝屋川市からの意見

北河内こども夜間救急センターは本市から離れており、「利用が困難であるといった声」がある。コロナ禍を経て一層、リモート・オンラインによる診療の技術は発展しており、他の自治体における導入事例もあることから、北河内こども夜間救急センターにおけるオンライン診療導入について、現時点での各市の考えや意見等を伺いたい。

2. 国指針・医師の意見**ア 国が示す指針等**

国が示す「オンライン診療の適切な実施に関する指針[※]」には、「初診は「かかりつけの医師」が行うこと、直接の対面診療を組み合わせることが原則」、「オンライン診療が困難な症状として、一般社団法人日本医学会連合が作成した『「オンライン診療の初診に適さない症状』等を踏まえて医師が判断し、オンライン診療が適さない場合には対面診療を実施」することが記載されている。

「日本医学会連合オンライン診療の初診に関する提言[※]」では、「初診のオンライン診療はかかりつけの医師(背景の分かっている患者に対して行う場合のみ)初診からのオンライン診療が行うことが原則」とされ、緊急性により初診からのオンライン診療に適さない小児の状態として、熱中症や高体温症による頭痛や嘔気嘔吐、胸部痛や腹部痛などの強い疼痛、また脱水やけいれんなどが挙げられている(北河内こども夜間救急センターにかかる患者の症状は、ほぼこれらの症状に該当)。

※ 別添資料参照

イ 北河内こども夜間救急センター管理医師及び出務医師の意見

高齢者の定期的な診察など、比較的状态が安定している場合については、オンライン診療は有効な手段であるが、小児の救急対応には向いているとは言えず、また保護者の不安解消という点においても導入は困難と考える。

オンライン診療では薬の処方が難しく、相談体制の充実につながる結果だけとなる。相談体制の充実であれば、#8000などの24時間の医療電話相談など環境は整っている。直接診療をする方が確実な診断ができると考える。

3. 各市意見

門真市：医師会に確認したが、初診でオンライン診療を行うのは難しいという回答であったことから、その意見を踏まえ、現時点では門真市としては厳しいという見解。

交野市：オンライン診療は原則かかりつけ医でという見解があるのであれば、そぐわないと考える。また、医療法の一部改正の動きがあり、その中でオンライン診療について一定の基準を定めていくといった動きもあると聞いている。そういった動向を見極めたうえで検討してはと考える。

四條畷市：オンライン診療は触診ができない、かつ、かかりつけ医が診察してくれるわけではないので難しいのでは。また、子どもであれば痛みを表現すること自体難しいので、そういったことを考えると今は難しいという考え。

大東市：市職員の専門職に話を聞くと、救急で診療という状況であれば全身状態を診る必要があることから、オンライン診療だけで対応できるのかわからず、また保護者の情報伝達力にも差がある。翌日の受診を避けるため、安易な受診者が増えるといった可能性もあるので、実施するのであれば様々な課題をクリアする必要があると考える。

守口市：各市の意見と同様。オンライン化やDX化の推進は承知しているが、小児の初診でオンライン診療を実施するのは難しいと考える。実施するのであれば諸課題の解決や対応していただく医師の理解が不可欠と考える。

枚方市：国指針・医師の意見を踏まえると北河内こども夜間救急センターでの導入は難しいという考え。

4. 幹事会での結論

オンライン診療を導入することは難しいという意見が多く、国の指針や出務医師の見解を踏まえると、北河内こども夜間救急センターでオンライン診療を導入することについては夜間における小児初期救急医療機関の性質上、現段階で導入することは難しい。今後においては、社会状況の変化に応じて引き続き検討していくこととなった。

以上